

THE ROTARY CLUB OF NAGOYA-CHIKUSA



WEEKLY

なごや
ちくさ

題字 黒野清宇

名古屋千種ロータリークラブ
承認 1982年 8月24日
例会日 火曜日 12:30
例会場 愛知厚生年金会館
事務局 TEL763-5110 FAX763-5121
会長 笹野義春
幹事 佐久間良治
会報・雑誌委員長 舎人経昭

No20

人類が私たちの仕事 MANKIND IS OUR BUSINESS

2001~2002年度 RI会長 リチャード D・キング

きょうの例会

第928回 平成13年 12月 11日(火)
年末会員・家族懇親会
於：東急ホテル 18時～

〈例会〉

- “奉仕の理想”
- 出席者
 会員 54名
 家族 72名
 ゲスト 2名
- 笹野会長挨拶
- 佐久間幹事報告

〈懇親会〉

- 二村親睦活動委員長より
 歓迎挨拶
- ゲスト・新入会員紹介
- 乾杯(水野(民) 創立会長)
- ジュディー・オング・ディナーショー
- 小坂井副会長閉会挨拶
- “手に手つないで”

先週の記録

第927回 平成13年 12月 4日(火) 晴

◆“君が代” “それでこそロータリー”

◆出席報告

会員	72(66)名	出席	48名
出席率	72.73%		
前々回	11月20日(修正出席率)	98.48%	

◆ビジター紹介 3名

◆ゲスト紹介

名古屋市立大学 人文社会学部 教授 安川 悦子さん

佐久間幹事報告

1. 本日例会終了後、年次総会を開催致しますので、全会員そのままお残り下さい。
2. 次回例会は午後6時より東急ホテルにて年末会員家族懇親会を開催致しますので、昼間の例会はございません。

舎人雑誌・会報委員長より案内

ロータリーの友11月号の談話室に“「友」はなぜ読まれないか”と題された記事が寄せられ、私自身反省するところもありますが、毎月お配りする友やガバナー月信には良い記事が載っております。今後、時間のあります時にご紹介していこうと考えておりますので、よろしくお祈りいたします。

◆年末謝礼贈呈

愛知厚生年金会館・社会保険サービス(株)

笹野会長挨拶

この度は雅子様のご無事にご出産されましたこと心からお祝い申し上げます。

さて、旅客機テロ、炭疽菌に我が国では狂牛病騒動が加わりデフレ傾向に拍車がかかりました。牛丼やハンバーガーなどが値下げの外食業界では、個人経営の飲食店が窮地に立たされているということです。「牛丼が280円の時代、一杯500円が高いと言われる。パート人件費をみると値段的には限界」「従業員7~8人の食堂だと人件費だけで客一人に300円近くかかり仕入れも少量のため材料費でもチェーン店に太刀打ちできない」と業界の役員は話します。

名古屋市内では92年に4万店あった飲食店が今年3月現在は3万7千店に減少したそうです。

物価が下がることは消費者から見れば結構なことですが、そのため収支のバランスが悪化し人件費を圧迫、リストラや給与減を招き、消費者である従業員に跳ね返り消費が冷え込むという悪循環が始まります。

テロで痛手を被った日本航空によると来年の決算予想は900億円の赤字になるとのこと。

JTB地球倶楽部西日本は3泊5日のニューヨークツアーを1人2万円で発売、往復の航空券と3泊のホテル代が含まれ驚きの料金です。

先の明るさが一向に見えてこない今の世の中、消費者も安いからといって直ぐ買い込むという傾向はなく売り手も買い手も大変な状況が続いております。吹き荒れるリストラの嵐の中で生き残る努力を重ねて私達も頑張ってやっていきたいと思っております。

◆講 演

“ウィリアム・モリスのデザイン思想”

名古屋市立大学 人文社会学部 教授 安川 悦子さん
(紹介 黒須さん)



- 室内装飾、壁紙、本の装丁、イングリッシュ・ガーデン、モリス展 (1997)
- ヴィクトリア時代のイギリスの中流階級の文化の原点
 - * モリスは何をした人かルネサンスの伝統における最後の「普遍人」
 - ① 詩人・小説家としてのモリス
 - ② プリリアントなデザイナー・工芸家としてのモリス
 - ③ 社会思想家・ユートピア思想家モリス
 - ④ 社会主義運動家モリス

I モリスが生きた時代と社会

- * ヴィクトリアの繁栄（「世界の工場」としてのイギリス）
- * そして「大不況」の時代（1880年代～1890年代）のイギリス
- * 父親は成功した株式仲買人、最上層のイギリスの中流階級の一人
- * オクスフォード大学に進み、カーライルやラスキンに共感する
- * ヴィクトリアの俗物根性批判、金銭第一主義批判
- * 中世の芸術へのあこがれ、なぜなら真の熟練職人がいたから

II モリスのデザイン思想の形成（1870年代末から1880年代にかけて）

- 『民衆の芸術』（1879年）モリスが訴えたこと-
- * 芸術は日常生活と結び付いたものであること→「アーツ・アンド・クラフツ運動」
日本の柳宗悦への影響（『工芸の道』昭和3年）
- * 芸術は日常的労働と結び付いたものであること
- * 日常的労働が芸術そのものであること→労働の喜び

III モリスのユートピア小説『ユートピアだより』（News from Nowhere, 1890）

- モリスの描く「どこにもない国」はどのような国だったか。
- * すべての人が役に立つ労働をする=労働の喜びの実現
 - * 能力に応じて仕事をし、必要に応じて富を消費する
 - * 国家の消滅=自由人のつくるコミュニンの実現
 - * 豊かな自然と人間の交流=豊かな肉体と健康
 - * 技術革新による生産力の圧倒的上昇

G・S・Eを終えて

受入責任者 小山 雅弘



ロータリー財団の重要な地区単位事業であるGSE（Groop Study Exchange 研究グループ交換）は今年度RI3750地区（韓国・京畿道）と行われました。受入チームは姜昌浩団長他4名で11月2日に来日しRI2760地区の各分区にホームステイし環境問題と日本文化の理解をテーマに熱心な研修と長崎ハウステンボス見学、地区大会への出席などを行ない12月2日元気に帰国しました。

東名古屋分区では11月29日～12月1日の3日間、東・昭和・千種が協力クラブとなり団員のホームステイ他、松楓閣での歓迎夕食会・名古屋北RC例会出席・豊明花き・トヨタ博物館・愛知県陶磁資料館・名古屋能楽堂・中部日本放送・大須観音の見学を行ないました。姜団長をホームステイした佐久間さんは昼はゴルフ、夜は錦とお相手し持ち前のキャラクターで友情を深め、近々韓国へ行かれるそうです。大口さんのお宅にホームステイした紅一点の姜慶淑さんは送別晩餐会で日本語にて挨拶されましたがとても上手で立派でした。今回、受入責任者としてお世話する機会を与えて頂いて感じた事は、“地区GSE委員会の方々、各分野でお世話された方々の献身的な対応”“訪問先でのロータリアンである事に依る好意的対応”“国際理解は人的交流から生れる”と云う事です。

ありがとうございました。

年次総会

1. 2002～2003年度理事役員の件
2. 退会者の弔事の件(在籍10年以上は弔電・供花)
上記、全会員に承認されました。

◆ニコボックスは次回掲載と致します。

◆次回例会（12月18日）

講演 “腹話術”

東海書道芸術院 院人

清田 節子さん

(紹介 黒須さん)